

「重症度、医療・看護必要度と DPC 情報システム」を活用した入退院支援の有用性の検証

社会医療法人社団カレスサッポロ時計台記念病院
入退院支援室 加瀬史代 西川聖子 平山なつ美 中田美喜
鈴木健吾 藤岡宏 高橋誠実 久保良美 小原淳

当院は、平成 28 年 4 月に DPC 参加病院となったことを機に、入退院支援室を発足した。入院決定時から始まる「入退院支援の流れ」をフローチャートに明示し、入院前オリエンテーション・退院支援スクリーニング・退院支援計画立案・退院支援・退院調整会議といった一連の取り組みを行っている。この一連の流れの中では「重症度、医療・看護必要度と DPC 情報」を、常に確認しながら支援を行っていたため、その情報をタイムリーに把握するためにオーダーリングシステムと連携したファイルメーカーシステムを開発した（以下「必要度・DPC 情報システム」と表す）。

今回、平成 28 年 4 月 1 日～平成 29 年 3 月 31 日に退院支援加算を算定した 539 名を対象に、「必要度・DPC 情報システム」を活用した入退院支援によって、適切な時期に適切な転帰先へ退院することができたかを検証した。その結果、必要度や DPC 入院期間を考慮した、患者・家族が望む転帰先への入退院支援が行われるようになってきたことが明らかとなった。